



学校だより

# 志高く

正しい判断力とたくましい実践力を  
もった熊谷東中生を育む学校

発行 熊谷市立熊谷東中学校  
電話 048(521)0066  
FAX 048(521)8429  
令和6年5月8日  
第3号

## 前期人権旬間 ～人権について考える～

校長 清水利浩



体育館前の新緑のイチョウ 5月10日撮影

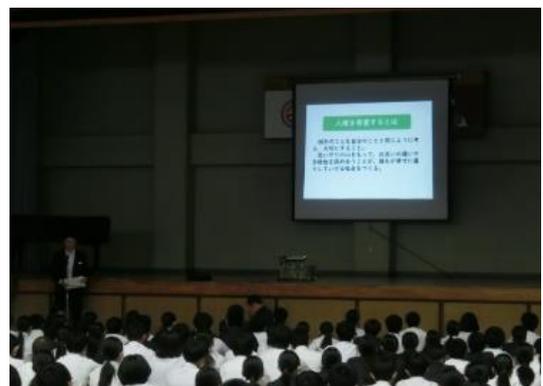
人権とは、誰もが生まれながらにして持っている、人が人らしく生きていくための権利で、誰からも侵されることのない基本的な権利です。そして、人権を尊重するとは、**相手のことを自分のことと同じように考え、大切にすることです。そして、思いやりの心をもって、お互いの違いや多様性を認め合うことです。その結果、誰もが幸せに暮らしていける社会が創られます。**

人権を意識することなく過ごしていると、私たちは知らず知らずのうちに誰かを傷つけ、人権を侵してしまうことになります。社会の中に様々な差別や偏見があり、社会の変化に伴って人権に関する問題は複雑化してきています。

埼玉県のホームページを見ると、人権に関する問題が14に分類されています。

- (1) 女性の人権 (2) 子供の人権 (3) 高齢者の人権
- (4) 障害のある人の人権 (5) 同和問題(部落差別) (6) 外国人の人権
- (7) HIV感染者・ハンセン病患者・新型コロナウイルス感染症等の人権
- (8) 犯罪被害者やその家族の人権 (9) アイヌの人々の人権
- (10) インターネットによる人権侵害
- (11) 北朝鮮当局による拉致問題
- (12) 災害時における人権への配慮
- (13) 性的指向・性自認(LGBTQの人権)
- (14) 様々な人権問題

これから、校長先生が皆さんにお話しすることは、ある人にとっては、参考になるかも知れません。でもある人にとってはそうじゃないかも知れません。とりあえず今日のこの時間までに、校長先生がまとめたものをお話しします。



まずは、ある歌の歌詞を示します。これだけ見てわかりますか？

これは、[RADWIMPSの野田洋次郎さんが作った「正解」という曲](#)の歌詞です。2，3年生は、3月に卒業を祝う会で、卒業生が皆さんのために歌ってくれた曲です。校長先生は、大変感動しました。

歌詞の中に、私が2ヶ所、空欄を作りました。この空欄には、今の自分が解決したいこと、悩んでいることの言葉が入ります。皆さんの中には、もしかしたら、この「正解」を知っている人もいるかも知れません。ここでは、今の自分自身のこととして考えて、「そう簡単には解決できないこと」をあげてみて、考えてみてください。

この先に出会うどんな友とも 分かち合えない秘密を共にした  
それなのにたったひと言の 「ごめんね」だけ やけに遠くて言えなかったり  
明日も会うのになぜか僕らは 眠い眼こすり 夜通しバカ話  
明くる日 案の定 机並べて居眠りして 怒られてるのに笑えてきて  
理屈に合わないことを どれだけやれるかが青春だとでも どこかで僕ら思っていた  
のかな ああ 答えがある問いばかりを 教わってきたよ そのせいだろうか  
僕たちが知りたかったのは いつも正解などまだ銀河にもない

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

なに一つ見えない 僕らの未来だから  
答えがすでにある 問いなんかに用などは  
ない

この曲は、皆さんと同じ、学生時代をうたっているものです。皆さんは、どんな言葉を考えましたか。この曲の言うとおりに、正解はないのでしょうか。

この曲では、このようにうたっています。

(一番大切な君と 仲直りの仕方)

(大好きなあの子の 心の振り向かせ方)

そして、この曲の出だしの部分は、このように始まります。

この先に出会うどんな友とも 分かち合えない秘密を共にした  
それなのにたったひと言の 「ごめんね」だけ  
やけに遠くて言えなかったり

人と人との関わり方、うまくいている時は、いいのですが……。仲間との関わり方とても難しいものです。なんで簡単にうまくいかないのでしょうか。



卒業生の合唱風景 3月8日撮影

今年のお正月、妻沼の聖天様に初詣に行ったのですが、その時に、お坊さんからいただいたものに、「自己スキーマー」ということについて書いてありました。

人は誰でも自分自身のイメージを持っています。心理学の言葉でこれを、「自己スキーマー」と呼びます。例えば、「私はせっかちで失敗が多い」「自分は社交的な性格だから、誰とでも仲良くなれる」など、私たちは、自分自身について、さまざまな思い込みがあるものです。

そして、年齢を重ねていくにつれ、どんどん自分の都合のいいように解釈してしまう傾向があるそうです。



正門脇のシャクヤク 5月8日撮影

その結果、「私は間違っていない」「相手が間違っている」という考えが強くなっていきます。こうして人と人との関係がうまくいかなくなるのかもしれませんが。

では、そうならないためにはどうしたらいいのでしょうか？

聖天様でいただいた紙にはこう書いてありました。

「自分は正しい」と考えないことだそうです。

深呼吸して、「自分が間違っているかもしれない」「相手の意見を聞こう」という気持ちになってみましょう。たとえ明らかに相手の話が間違いという場合も、鬼の首を取ったよ



うな態度をとってはいけません。まずは相手の意見を受け入れてから、自分の考えを伝えることにしましょう。

5月4日、こどもの日を前にTVでは、こどもの日特集と題した番組が数多く放送されていました。校長先生が見た番組は、俳優の中村倫也さんが出ていて、「アタッチメント」ということについて取り上げていました。

**アタッチメントとは、人がもつ、不安を和らげて安心したいという気持ちのことだ**とい  
います。私たちは、自分一人では生きていけません。そして、**安心できる安心基地**という  
ものを求めているのだそうです。

それは、親であったり、家族であったり、仲間・友人、恋人、社会であったり・・・、  
様々です。**このアタッチメントである安心基地があることで、人々は、挑戦することがで  
きるのだそうです。**

例えば、赤ちゃんが親と一緒にいる時は、その存在を感じて親から離れておもちゃで遊  
ぶことができるのに、親の姿が見えなくなると、とたんに不安を感じて泣き出してしま  
います。安心基地があって、挑戦できるのだと、その番組は話していました。



人と人との関わり方は、ここ何年か  
でも大きな変化を見せています。

その一つが、**SNS**です。これは、  
人と人との関わる方法、向き合う方法  
の一つです。簡単に伝えることができ  
ます。

でも、SNSは、直接、会う時と比  
べて、その関わりの深さがわかりにく

いものです。親身に聞いてくれているのか、そうでないのか。便利な反面、新たな不安や  
心配が生まれてくるのです。

私たちは、今の社会、これからの社会も人と人との関わりの中で生きていかなければな  
りません。人と人との関わることは、時に様々な問題に直面します。その時、「正解」は  
一つではないのでしょうか。

**私たちは、正解のない問いを対話と経験をとおして、最適解を探していかなければなら  
ないのかもしれない。**

校長先生のお話は、以上です。何か参考になりましたか？